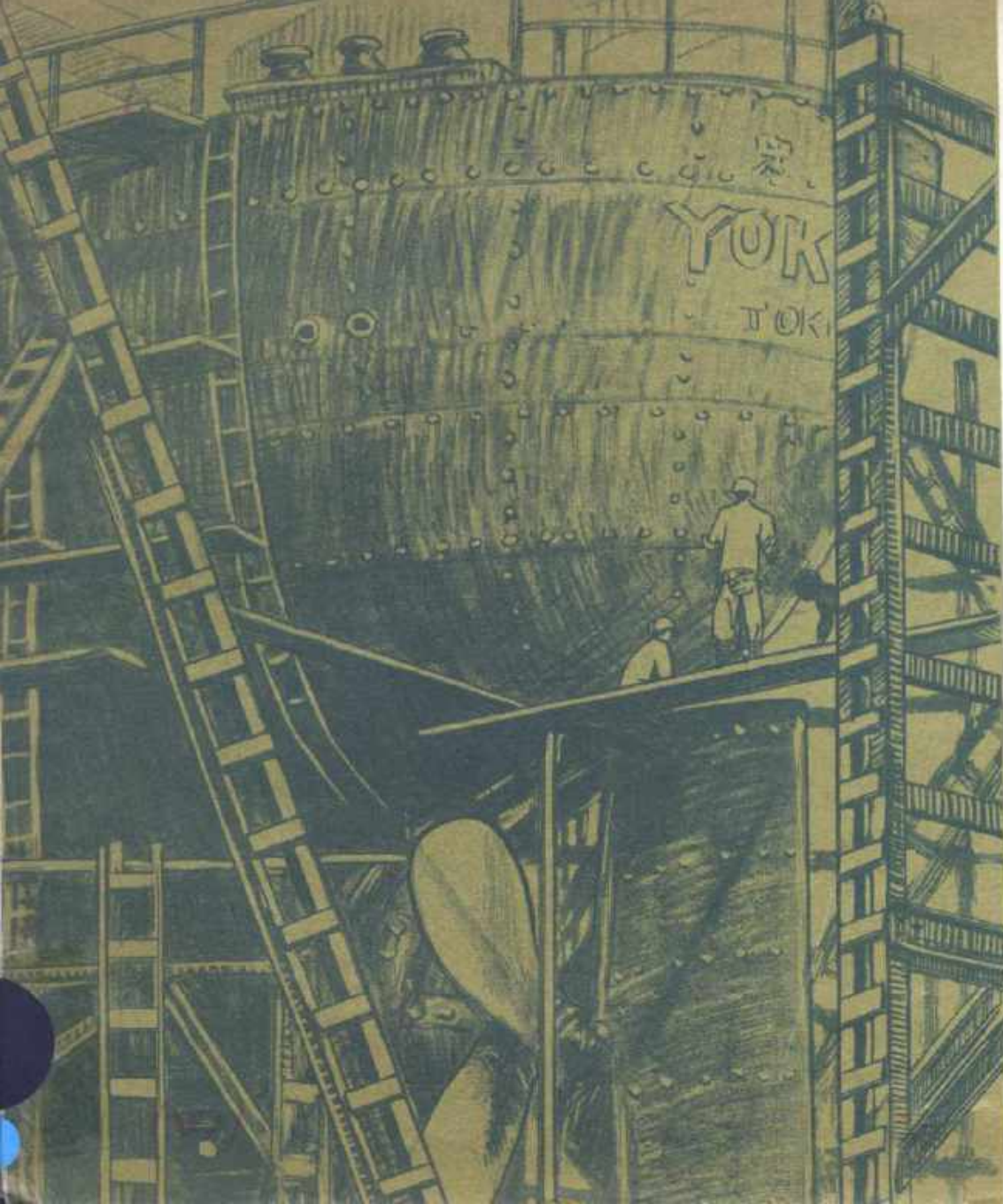


造船業に働く年少者の 余暇生活



労働省婦人少年局
1952年7月

は し が き

年少労働者の保護育成のためには労働条件、労働環境を向上整備するとともに、労働余暇の生活の善導も欠くことの出来ないものである。そこで年少労働者の余暇生活を中心に調査を行つて、その実態を把握し、余暇生活善導の資料とするためにこの調査を行つた。

調査対象として造船業を選んだ理由は、この産業が、重要産業の一つであり、年少労働者保護育成の観点からみた場合次のような特殊性が考えられるからである。

- (1) 造船業の事業場は企業規模が大であるため今まで多くの業種について調査した小規模事業場と比較した場合、施設、その他を含めた労働条件に相違がみられるのではないか、又、その影響が余暇生活に現れていないか。
- (2) 労働環境が他産業と著しく異なるので、それが年少労働者にどのよ

うな影響を与えているか。

- (3) 年少労働者の大部分は技能養成工として働いているので、技能養成工の労働実態を把握し、同時に一般工との比較を行う。

ここにまとめたものは年少労働者自身の回答による個人調査結果であるが、同時に事業場に対して行つた労働条件、労働環境、災害、疾病等の調査報告(第17集として近く刊行)も併読していただく事により、造船業に働く年少労働者の実態を知ることができると思われる。

目 次

一、調査の目的	1頁
二、調査の方法	1
三、調査の結果	1
問2—a あなたは常雇ですか、臨時雇ですか	1
b 年齢はいくつですか	1
c いつここに勤めましたか	2
問3 あなたの職名はなんといいますか	2
問5 あなたは現在学校又は技術養成所にいつていますか	5
問6 あなたが朝起きてから夜ねるまでどんな生活をしているか下の例をよくみてから 自分の生活を表(1)及び表(2)に書き入れて下さい	9
問7 どうして勤めなければならなかつたのですか	17
問8 どうして造船工場を選んだのですか	18
問9 あなたは何になりたいと思いますか	20
問10 最近どんな本を読みましたか	21
問11 あなたは新聞を読みますか	24
問12 一般的に労働組合活動をどう思いますか	26
問13 あなたの工場の労働組合に何を望みますか	27
問14 あなたの工場に対して希望していることを書いて下さい	28
問15 あなたは入社前に学校又はそれ以外のところで職業指導を受けましたか	31
四、余暇生活調査票—個人調査—	

一、調査の目的

この調査は年少労働者が労働の余暇にどのような生活をしているか、どのような労働観をもっているか、またどのような教育（一般、技術）をうけるその効果がどの程度であるか、等を個人別に調べることにより、年少労働者の生活実態を知り、年少労働者保護育成のための資料を得ることを目的とする。

二、調査の方法

(1) 調査の対象

鋼船製造所、13事業場に働く年少者 2004 名

(2) 調査の地域

北海道、神奈川、東京、大阪、兵庫、岡山、広島、長崎の 8 都道府県

(3) 調査の担当

本省係員、地方職員室係員

(4) 調査期間

昭和26年5月28日より6月末日まで

(5) 調査の基本期日

昭和26年4月末の賃金ノ切日

(6) 調査方法

末尾に示す調査票に年少労働者自身の回答を記入してもらった。なお年少労働者以外の人は調査中同席を遠慮してもらって、調査の正確を期した。

三、調査の結果

問1 省略（勤務先の工場名）

問2-a あなたは常雇ですか、臨時雇ですか。

第1表 雇用形態別性別年少労働者数及比率

区分	計				男					女					
	計	常 雇		臨時雇	計	常 雇		臨時雇	計	常 雇		臨時雇			
		計	技能 養成 工			一般 工	計			技能 養成 工	一般 工		計	技能 養成 工	一般 工
実数	2,004	1,994	1,755	239	10	1,983	1,978	1,755	223	10	16	16	16	0	
比率	100	99.5			0.5	100	99.5			0.5	100			100	
%		100	88.0	12.0			100	88.7	11.3		100	—		100	

雇用形態については、常雇が 99.5%を占め、臨時雇は僅か 0.5% にすぎない。女子の臨時雇は全然なかった。

常雇の中の技能養成工と一般工の比率は前者88.0%に対し、後者12.0%で、大部分が技能養成工として雇い入れられている。又女子の技能養成工は一名もない。なお、13事業場中2事業場は、技能養成工は全然雇用していない。又1事業場は臨時工のみで占められている。

b 年齢はいくつですか。

第2表 年齢別性別年少労働者数及比率

区 分	計			17才			16才			15才			不 明		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
実 数	1,539	1,523	16	481	470	11	585	580	5	467	467	—	6	6	—
年齢比率	100	—	—	31.0	—	—	37.6	—	—	31.0	—	—	0.4	—	—
男女比率	100	99.0	1.0	100	97.0	3.0	100	99.0	1.0	100	100	—	100	100	—

ここで把握された年少労働者1539名について（総計2004名の中性別不明は465名である）年齢別に年少者数をみると16歳が最高で37.6%、次が17歳、15歳で両者ともに31%を占め、年齢不明は0.4%である。

性別については、15歳は男子のみ、16歳は男子99.0%女子1.0%、17歳は男子97.0%、女子3.0%となっており、全体では男子99.0%に対し、女子は僅か1.0%にすぎない。

C いつここに勤めましたか

第3表 勤続年数別年少労働者数及比率

区 分	総 計	計	6ヶ月未満	1年	2年	3年	3年以上	不明
実 数	2,004	1,026	367	400	247	12	—	978
比 率	—	100%	35.8	39.0	24.1	1.1		

総数2004名の年少労働者の中、この項目で把握された1026名について勤続年数別年少労働者数をみると第3表に示される通り6ヶ月以上1年未満が最も多く39.0%を占め、次が6ヶ月未満の35.8%、2年未満の24.1%で、3年未満はわずか1.1%にすぎない。3年以上は全然ない。

これは被調査者が18歳未満の者に限られ、したがって、3年以上勤続の者は成年者としてこの調査から除外されたことによるものである。

問3 あなたの職名はなんといえますか？

回答した年少労働者数は1,990名であった。此の者について、造船工業会で行っている職種分類によつて技能養成工と一般工とにわけて職種を比較する。なお、造船、造機、修理各部門別は、年少者が回答した部

門そのままをとつたものである。

第4表 部門別技能養成者数及比率

区 分	合計	造船	造機	修理	不明
実 数	1,746	1,027	452	161	106
比 率	100	58.8	25.9	9.2	6.1

先づ技能養成者について述べるならば第4表に示されている通り1,746名（男子のみ）の部門別比率は造船58.8%、造機25.9%、修理9.2%、不明6.1%となっている。

次に造船部門の各職種別をみると、最高は機械工25.7%、次は溶接工14.2%、仕上組立工11.5%である。

第5表A 造船部門職種別技能養成者数及比率

区 分	合 計	管理 補助 工	動力 工	検査 工	現 図 工	鉄 機 工	鉄 機 工	溶 接 工	鑄 造 工	機 械 工	仕 上 組 立 工	製 鋼 工	銅 工	そ 他 の 工	技 術 給 付 の 工
実数	1,027	52	4	2	90	23	86	146	79	261	118	96	61	4	2
比率	100	5.1	0.4	0.2	8.8	2.2	8.4	14.2	7.7	25.7	11.5	9.3	5.9	0.4	0.2

造機部門においては仕上組立工37.0%について木工の19.0%、電工14.2%となつ

第5表B 造機部門職種別技能養成者数及比率

区 分	合 計	現 図 工	鉄 機 工	鉄 機 工	木 工 工	塗 装 工	仕 上 組 立 工	銅 工	電 工 工	船 渠 工	そ 他 の 工
実数	452	12	11	39	86	11	167	14	64	42	6
比率	100	2.7	2.4	8.6	19.0	2.4	37.0	3.1	14.2	9.3	1.3

ている。修理部門は鍛造工31.7%、仕上組立工24.2%、木工22.4%である。

第5表C 修理部門職種別技能養成者数及比率

分 区	合 計	検 査 工	鉄 工	木 工	鍛 造 工	機 械 工	仕 上 組 立 工	電 工
実 数	161	16	12	36	51	6	39	1
比 率	100	9.9	7.5	22.4	31.7	3.7	24.2	0.6

第6表 部門別一般年少労働者数及比率

区 分	合 計	造 船	造 機	修 理	不 明
実 数	228	117	78	28	5
比 率	100	51.3	34.3	12.3	2.1

船 51.3%、造機 34.3%、修理 12.3%、不明 2.1% となつている。

第7表A 造船部門職種別一般年少労働者数及比率

区 分	合 計	管 理 補 助 工	現 図 工	鉄 材 工	鉄 工	溶 接 工	鋳 造 工	機 械 工	仕 上 組 立 工	製 缶 工	銅 工	給 仕
実数	117	1	12	2	7	40	12	25	1	9	4	4
比率	100	0.9	10.3	1.7	6.0	34.1	10.3	21.3	0.9	7.7	3.4	3.4

造船部門における職種別は第7表に示される通り、最高は溶接工34.1%、次で機械工 21.3%、現図工及び鋳造工は各 10.3%である。

第7表B 造機部門職種別一般年少労働者数及比率

区 分	合 計	鉄 工	木 工	塗 装 工	仕 上 組 立 工	製 缶 工	銅 工	電 工	船 渠 工	そ 他 の 工
実 数	78	12	14	2	21	7	3	12	5	2
比 率	100	15.4	17.9	2.6	26.9	9.0	3.8	15.4	6.4	2.6

次に造機部門においては仕上組立工 26.9%に次いで木工 17.9%、鉄工及び電工がそれぞれ 15.4%である。

第7表C 修理部門職種別一般年少労働者数及比率

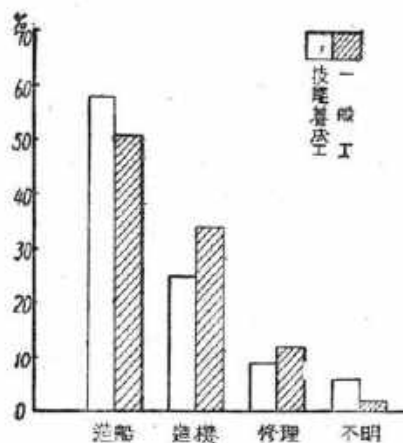
区 分	合 計	管 理 補 助 工	検 査 工	鉄 機 工	機 鉄 工	鉄 工	木 工	鍛 造 工	不 明
実 数	28	12	1	1	2	3	2	2	5
比 率	100	42.9	3.6	3.6	7.1	10.7	7.1	7.1	17.9

修理部門は管理補助工（主として工具工）が 42.9% を占め、次は鉄工 10.7% となつている。

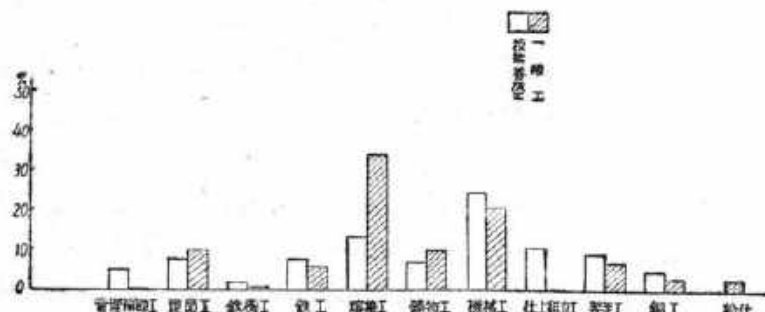
以上の諸点について技能養成工と一般工の職務を比較すれば、造船部門は技能養成工の方が一般工より 5.5%高く、造機、修理部門においてはそれぞれ 8.4%、3.1% づつ一般工の方が高くなつている。

次に造船部門の職種について比較するならば、第2図に示される通り、現図工、溶接工、鋳物工はそれぞれ 1.5%、19.9%、2.6% づつ技

第1図 部門別技能養成工一般工別年少労働者数比率



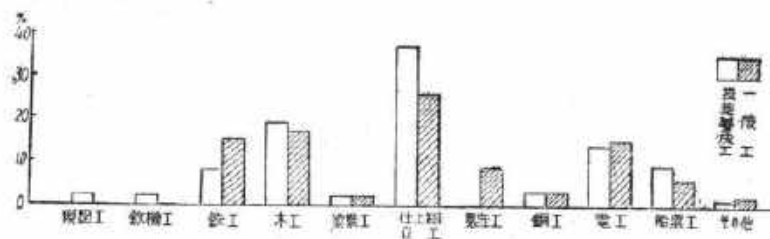
第2図 造船部門職種別技能養成工一般工別年少労働者数比率



能養成工より一般工の比率は高く、鉄工、機械工、製缶工はそれぞれ 2.4%、4.4%、1.6%づつ技能養成工の方が高くなっている。

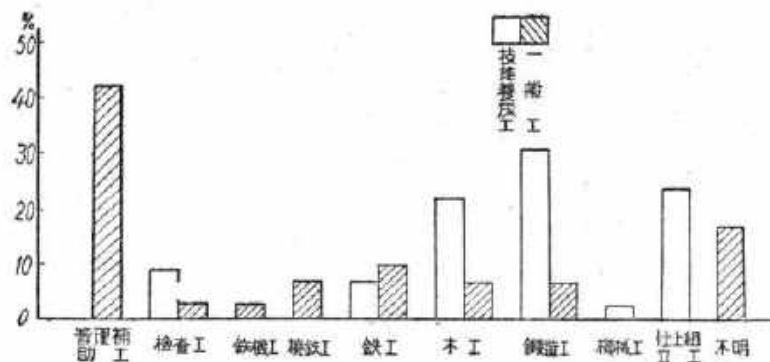
次に造船部門職種別比較においては、鉄工、製缶工、電気工はそれぞれ 8.8%、9.0%、1.2%づつ一般工の方が比率は高く、木工、仕上組立工、船渠工はそれぞれ 1.1%、10.1%、2.9%づつ技能養成工の方が高くなっている。

第3図 造船部門職種別技能養成工一般工別年少労働者数比率



次に修理部門の職種を比較すれば、管理補助工、鉄機工、焼鉄工、鉄工はそれぞれ 42.9%、3.6%、7.1%、3.2%づつ一般工の方が比率が高

第4図 修理部門職種別技能養成工一般工別年少労働者数比率



く、検査工、木工、鍛造工、仕上組立工は、それぞれ 6.3%、5.3%、24.6%、24.2%づつ技能養成工の比率が高くなっている。

第8表 職種別女子年少労働者数及比率

区 分	合 計	庶 務	厚 生	病院事務	看護婦	記録工	不 明
実 数	16	3	3	1	2	4	3
比 率	100	18.7	18.7	6.3	12.5	25.0	18.8

は 25.0% その他は病院の事務及び看護婦となっている。

問5 あなたは現在学校又は技能養成所にいつていますか。

第9表 性別通学有無別年少労働者数及比率

区 分	計	行っている	行っていない
実 数	計 男 女	735 731 4	1,243 1,234 9
比 率	計 男 女	37.1 37.2 30.8	62.9 62.8 69.2

養成工との比較をみると、技能養成工で夜学校に通う者は 36.5 %、一般工は 38.6% で、やや一般工の方が比率が高くなっている。

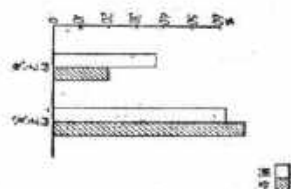
第10表 技能養成工一般工別通学有無別年少労働者数及比率

区 分	計	行っている	行っていない
実 数	計 技能養成工 一般工	735 649 86	1,243 1,106 137
比 率	計 技能養成工 一般工	37.1 36.5 38.6	62.9 63.5 61.4

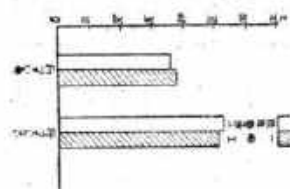
次に把握され

た 16 名の女子の場合をみると庶務、厚生等の事務が 37.4 % を占め、記録工

第5図 性別通学有無別年少労働者数及比率



第6図 技能養成工一般工別通学有無別年少労働者数及比率



第11表A 技能養成工一般工別学校種類別学年別年少労働者数比率

区 分	計					定 時 制 高 校					定 時 制 実 業 高 校				
	計	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年
計	735	304	327	89	14	534	224	235	62	13	201	80	92	27	1
技能養成工	649	276	291	70	12	493	217	215	55	11	151	59	76	15	1
一般工	86	28	36	19	3	36	7	20	7	2	50	21	16	12	1

次に学校へ行っている者 735名のみについて、(イ) 定時制高等学校(一般)、定時制実業高等学校別に年少労働者数を比較すれば、第11表に示さ

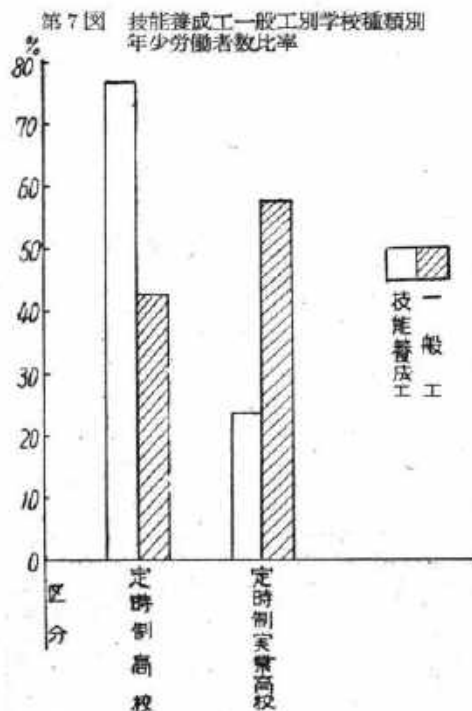
第11表B 技能養成工一般工別学校種類別年少労働者数比率

区 分	計	定 時 制 高 校	定 時 制 実 業 高 校
計	100	72.8	27.2
技能養成工	100	76.7	23.3
一般工	100	42.4	57.6

第11表C 技能養成工一般工別学年別年少労働者数比率

区 分	計	1年	2年	3年	4年
計	100	41.4	44.6	12.0	2.0
技能養成工	100	42.5	44.8	10.8	1.9
一般工	100	32.9	42.4	22.4	2.3

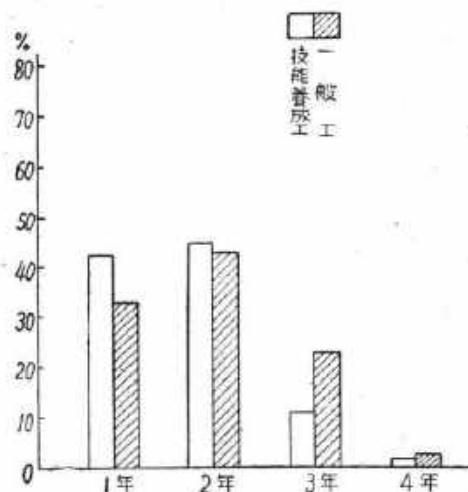
れる通り定時制高等学校に通う者は技能養成工は 76.7%、一般工は 42.4%である。又定時制実業高等学校に通う者は一般工の方が技能養成工より半数以上(技能養成工 23.3%、一般工 57.6%)多くなっている。その他の種類の学校に通学している者はみられなかった。



ロ 次に何年に在学ですかという質問に対しては、1年 41.4%、2年 44.6%、3年 12.0%、4年は僅かに 2.0%にすぎない。

技能養成工と、一般工との間にいちぢるしい違いはみられないが、3年では技能養成工 10.8%に対し、一般工は22.4%であり、4年では技能養成工 1.9%に対し、一般工は 2.3%で、やや一般工の方が比率が高くなっている。

第8図 技能養成工、一般工別、学年別、年少労働者数比率



みられる。即ち、技能養成工では「無理がある」と答えたものは 40.2%で、残りの半数(55.5%)は「無理がない」と答えている。しかし、一般工の場合は無理のある者が 52.4%、無理がないと答えた者は 13.9% (不明 33.7%) となつて

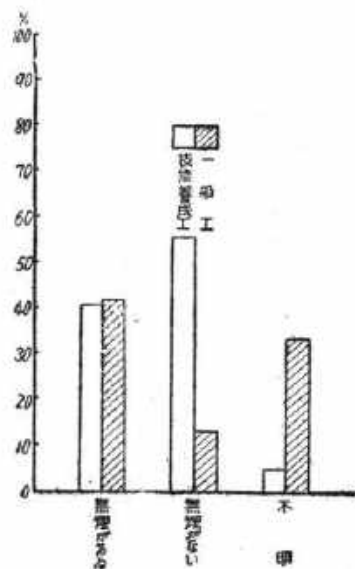
いる。次に「無理がある」と答えたものの原因を調べてみるならば、「過労に

第12表 技能養成工一般工別通学困難の理由別年少労働者数及比率

区 分	計	無 理 が あ る					無 理 が ない	不 明
		小計	過労になる	時間的に余裕がない	会社でいそがしい	理由不明		
実 数	計 技能養成工 一 般 工	735 649 86	306 261 45	160 136 24	111 97 14	5 5 —	30 23 7	382 360 22
比 率	計 技能養成工 一 般 工	100 100 100	(41.6) (40.2) (52.4)	(21.7) (20.8) (26.9)	(15.1) (15.1) (31.1)	(0.7) (0.8) (—)	(4.1) (3.5) (15.6)	52.0 55.5 13.9

ハ 学校と工場の両方の生活で無理がありませんか。との問に対して「無理がある」と答えたものは 41.6%、「無理がない」と答えたものは 52.0%である。しかし技能養成工と一般工では相当の意見の相違が

第9図 技能工一般工別通学上困難の有無別年少労働者比率



役にたちますか、この質問に対し、「役に立つ」と答えた者は 69.2%、「役に立たない」と答えた者は 5.6%、不明 25.2%である。これを技能養成工と一般工と比較すれば、「役に立つ」と答えた者の中、技能養成工は 73.3%であるに反し一般工は 38.4%にすぎない。

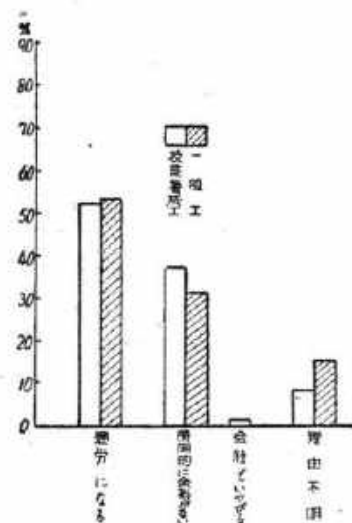
次にどんな役に立つかの問に対して、「将来、生活安定のためになる」と答えた者が 55.5%、「技術が身につけられ、仕事の上に役に立つ」と答えた者が 30.9% となっている。これを技能養成工と一般工にわけ傾向をみるならば、「技術が身につけられる」と答えた者は、技能養

なる」者 52.3%、「時間的に余裕がない」者 36.3%、「会社でいやがるからこまる」者 1.7%、不明 9.7% となっている。

技能養成工と一般工との意見の相違はあまりみられない。以上の通り過労になる者が半数以上を占めていることは注目されることである。

② 学校で勉強したり、或いは技能養成を受けていることが、あなたの生活にとつて、どんな

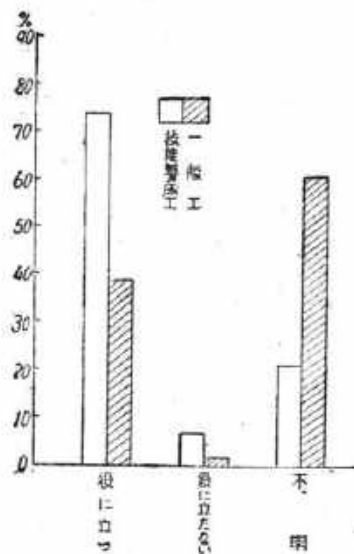
第10図 技能養成工一般工別通学上困難理由別年少労働者数比率



第 13 表 技能養成工一般工別通学上の利益別年少労働者数

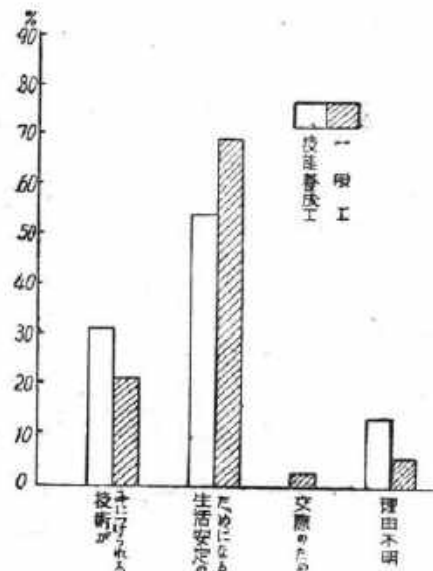
区 分		合 計	役 に 立 つ					役に立たない		不 明
			小 計	技術を身につけられる	生活安定のためになる	交際のため	理 由 不 明	計	理 由 不 明	
実 数	計	735	509	157	283	1	63	41	41	185
	技能養成工	649	476	150	260	—	66	40	40	133
	一般 工	86	33	7	23	1	2	1	1	52
比 率	計	100	(100)	(30.9)	(55.5)	(0.2)	(13.4)	(100)	(100)	25.2
	技能養成工	100	69.2	(31.5)	(54.6)	(—)	(13.9)	5.6	(100)	20.5
	一般 工	100	73.3	(21.2)	(69.8)	(3.0)	(6.0)	6.2	(100)	60.4
		100	38.4					1.2		

第 11 図 技能養成工一般工別通学上利益有無別年少労働者数比率



成工の方が一般工より 10.3% 多くなっている。
将来の生活安定のためになると答えた者は一般工 69.8% に対し、技能養成工は 54.6% となっている。その他「交際のため」と答えた者があるが、どのような意味であるか不明である。

第 12 図 技能養成工一般工別通学上利益理由別年少労働者数比率



第 14 表A 技能養成工一般工別通学出来ない理由別年少労働者数及比率

区 分		合 計	学 校 に 行 き た い が 行 か れ な い							学 校 に 行 き た く な い					不 明
			計	時間がない	身体がつかれる	適当な学校が近くにない	学費が出せない	その他	理由不明	計	休がつかれる	勉強がきらい	その他	理由不明	
実 数	計	1,243	938	169	469	140	112	36	12	95	52	15	3	25	210
	技能養成工	1,106	801	147	404	119	83	36	12	95	52	15	3	25	210
	一般工	137	137	22	65	21	29	—	—	—	—	—	—	—	—
比 率	計		100	18.0	50.0	14.9	11.9	3.8	1.4	100	54.7	15.8	3.2	26.3	
	技能養成工		100	18.2	50.5	14.9	10.4	4.5	1.5	100	54.7	15.8	3.2	26.3	
	一般工		100	16.1	47.4	15.3	21.2	—	—	—	—	—	—	—	

第14表B 技能養成工一般工別通学出来ない理由別
年少労働者数比率

区 分		合 計	行かない	行きたくない	不 明
実 数	計	1,243	938	95	210
	技能養成工	1,106	801	95	210
	一般工	137	137	—	—
比 率	計	100	75.5	7.6	16.9
	技能養成工	100	72.4	8.6	19.0
	一般工	100	100	—	—

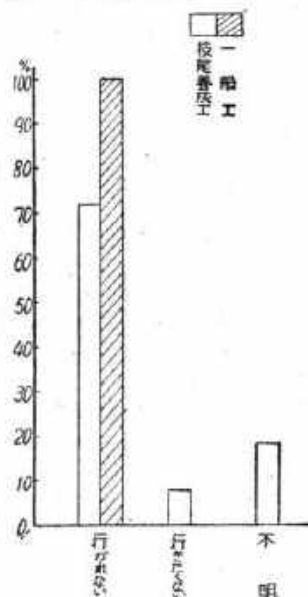
次に学校に行っていない者 1,243名についてみると、「学校に行きたいが行かない」と答えた者が 75.5%ある。不明は 16.9%を占めているが、「行きたくない」と答えた者は僅か 7.6%にすぎない。

行きたいが行かない理由については第 14 表に示されている通り、「身体が疲れる」という理由が圧倒的で半数を占め、次は「時間がない」(18.0%)「適当な学校が近くにない」(14.9%)等の意見である。「学費が出せない」という理由も 11.9%を占めている。

次に「行きたくない」者の主な理由は「身体が疲れる」(54.7%)「勉強がきらい」(15.8%)となっており、理由不明の者が 26.3%を占めている。

これらの理由について、技能養成工と一般工のいちぢるしい相違は「学校に行きたいが学費が出せない」と答えたものが、技能養成工は10.

第13図 技能養成工一般工別通学出来ない理由
別年少労働者数比率



4% に対し一般工はその約二倍の 21.2%を占めている。その他はだいたい同傾向である。又「学校に行きたくない」者が一般工の場合は全然ない事は注目に値するものである。

問6 あなたが朝起きてから夜ねるまでどんな生活をしているか下の例をよくみてから自分の生活を表(1)及び表(2)に書き入れて下さい。

必ずかき入れなければ

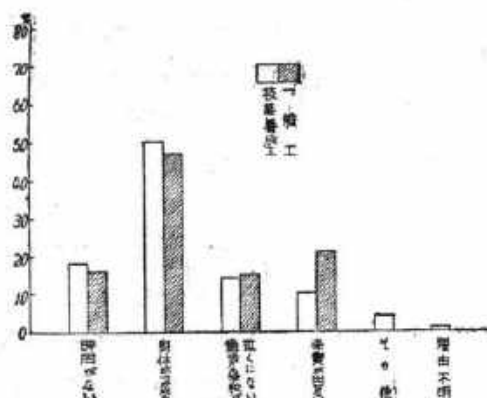
ならないこと、起きる時刻、ねる時刻、作業時間、食事時間、通勤時間、準備時間、休憩時間。

この項目は年少労働者の労働生活、余暇生活の構造を時間的側面から明らかにするために、労働日と休日の生活時間を調査したものである。

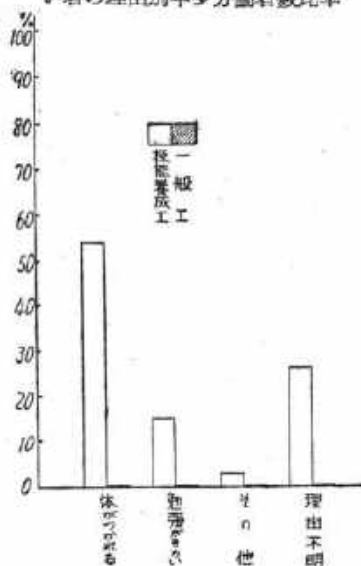
生活時間の分類方法について

生活時間の分類方法は非常に多く、又項目の内容についても各人の規定の仕方が異っている。ここでは「労働医学心理学研究所」の藤本武氏の分類の方法を参考として、調査の目的に適すると思われる分類方法をとることとした。

第14図 技能養成工一般工別通学希望者の通学出来ない理由別年少労働者数比率



第15図 技能養成工一般工別通学希望しない者の理由別年少労働者数比率



“工場における生活時間”は労働者が生産のために労働力を売る時間で、“作業準備時間”“労働時間”“職業教育の時間”“休息の時間”“食事時間”“スポーツ、娯楽の時間”“通勤時間”等を含めていて、この時間内には休息、娯楽等があるが、兎も角全体として拘束を受けている時間である。“工場外における生活時間”は一日の生活時間から“工場内における生活時間”を除いた総ての時間で労働力の再生産が行われ拘束を受けない一応“自由な時間”である。

この二つの項目は、例えば前者の中の労働時間が非常に長いとすると、後者の中の教養の時間が失われたり、睡眠時間が最低必要時間以下になつたりするし、逆に重筋作業等に従事する労働者は長い睡眠

時間を必要とするため労働時間は比較的短時間である等と関連のあるもので、年少労働者の労働生活、余暇生活の構造を明らかにするためには、この二項目の関連を知る事が必要と思われる。“工場外における生活時間”は更に“生理的再生産の時間”“社会的文化的時間”“家事手伝の時間”に分けられる。“生理的再生産の時間”は“食事の時間”“身仕度の時間”“入浴の時間”“休息の時間”

“衛生の時間”“睡眠の時間”等で直接生理的再生産が行われているものと、みとの中に含めることとした。“社会的文化的時間”は“通学の時間”“教養の時間”“運動の時

1. 労働日

労働日の分類は次の項目によることとした。

第16表 分類項目

工場における生活時間										工場外における生活時間									
										生理的再生産の時間					社会的文化的時間				
作業準備	労働	職業教育	休息	食事	スポーツ娯楽	通勤	食事	身仕度	入浴	休息	衛生	睡眠	通学	教養	運動	娯楽	交際	家事手伝の時間	

間”“娯楽の時間”“交際の時間”に区分されている。この時間は私達が生物的存在であるとともに社会的、文化的な存在で、労働力を再生産するには社会的文化的な生活が欠くことの出来ないものであることと特に年少労働者の場合は労働者としての成長のために、或は生産労働を行うために、智識、技能の育成が必要で、それには社会的文化的時間が大きな役割を果たすものと思われるために一つの項目として分類した。“家事手伝いの時間”は家事労働の時間である。

次に細かい項目の内容については次のように定めた。

工場における生活時間

作業準備——作業につく前に衣服を着かえたり、機械の手入れをしたり掃除をしたりする時間

労働——休憩時間を除いた実際の作業時間、手持時間は含める。

職業教育——技能養成令にもとづかない場合も含めた技能教育或は一般教育の時間

休息——工場内における休息時間

食事——工場内における食事時間

スポーツ、娯楽——工場内におけるスポーツ、娯楽の時間、調査の準備からこの二つが明確に区別出来なかつた。

通勤——通勤に費す時間で、これを工場における生活時間の中を含めたのは、拘束時間とみてよいと思われたからである。

工場外における生活時間。

食事——工場外における食事時間を合計したもの。

身仕度——工場外における身づくろい、洗面、着換え等の時間

入浴——工場外における入浴時間

休息——休息を目的とした時間

衛生——病院に行つたり、身体衛生のために用いた時間。

睡眠——0時から起床までと床に就いてから24時までの時間を加えたものである。普通睡眠時間と云つた場合前日の床に就いた時間から当日の起床までの時間を指すが、調査日程が一日であつたため、ここでは便宜上、上記の方法をとつた。

通学——通学（夜学）時間で学校で勉強する時間は入らない。

教養——夜学、又は工場外で学習する時間、読書、新聞よみ、書きもの、その他年少者の智識の向上のために用いる時間。

運動——工場外で行う運動の時間、一般スポーツ、散歩等。

娯楽——工場外でラジオをきく時間、趣味、一般娯楽、雑談等に用いる時間。

交際——工場外の会合、応接等の時間。

家事手伝い——炊事、買物、裁縫、洗濯、掃除、まきわり、子供の相手等々の家事労働の時間。

2. 休日

第16表 分類項目

生理的再生産の時間					社会的文化的時間							家事手伝いの時間
食事	身仕度	休息	入浴	睡眠	教養	運動	趣味	交際	娯楽	音楽	ラジオ	

休日の場合は労働日の“工場外における生活時間”と大体同じ分類方法を用いた。

調査対象数 この項は記入しない者や不明のものが多かつたので確実

に書いてある人員数を集計したため他の項目と人員数が異なる。

男子 1919名 (技能養成工 1715名、一般工 204名)

女子 3名

こゝで比較集計したもの

{男子 1919名
女子 3名

{技能養成工 1715名
一般工 204名

{A造船所(東京都) 122名
B造船所(岡山県) 150名

調査者は表を記入させるにあたって特に次の点に配慮した。

この調査は生活時間調査であり、詳しい程よいが、年少者の場合あまり細く分ける事は無理であるから、食事、準備、通勤、休憩の時間のみを15分とし、他は30分単位に記入させる。

起床、食事、準備、通勤、作業、休憩の事項に就ては必ず記入させ、この他に休み時間はスポーツをするとか、休日には家事の手伝いをするとか、或は映画、ラジオ等を楽しむ等多くの例をあげて説明する。

1表は昨日1日としてあるが、その日が定休日であつた時はその前日とし、労働した1日の生活を調べる。

2表のこの前の休日とあるのは日曜、祭日、電休日等、定められた一齊にとる休日を意味し、この1日の生活を調べる。

調査結果

こゝでは労働日、休日の平均生活時間を男子と女子、技能養成工と一

般工、A造船所とB造船所の6つのグループに分けて集計、比較を行った。次の表は労働日及び休日の平均生活時間を100分比であらわしたものである。

1. 労働日

第17表 労働日の性別平均生活時間比率

区 分	総 計	工場における生活時間								
		小計	作業準備	労働	職業教育	休息	食事	運動 娯楽	通勤	その他 及び不明
男子	100%	42.67	0.96	23.21	6.13	3.04	1.58	0.67	6.83	0.25
女子	100%	38.17	—	29.51	—	—	—	—	7.29	1.37

小計	工場外における 生理的再生活の時間							
	計	食 事	身仕度	入浴	休息	衛生	睡眠	その他 及び不明
57.33	39.08	3.82	1.58	0.38	0.96	0.05	32.08	0.21
61.86	45.83	6.25	1.04	—	3.12	—	35.42	—

計	生活時間 社会的文化的時間						家事手伝 の時間
	通学	教養	運動	娯楽	交際	その他 不明	
16.87	0.83	10.21	1.33	3.54	0.25	0.71	1.38
15.29	—	6.96	—	5.54	—	2.79	0.71

この場合、女子は3名しかいないので、“平均”として信頼度が低いものと思われる。

“工場における生活時間”は男子42.67%、女子38.17%で男子が

高くなっている。“労働時間”と“職業教育の時間”は男子、女子どちらも24時間の中約30%が費されている。次に“工場外における生活時間”をみると“生理的再生産の時間”は女子の比率が高く、それが“休息”“睡眠”等に著しく現れている。“社会的文化的時間”は男子の方が幾分高く、その内容は“教養”では男子が、“娯楽”では女子が高くなっている。又“家事手伝い”も男子が高い。そこで男子の場合は“工場における生活時間”の比率が高いにもかかわらず、“社会的文化的時間”も高くなっているが、女子は“生理的再生産”により多くの時間を用いていることになる。

第18表 労働日の技能養成工、一般工別平均生活時間比率

区分	総数	工場における生活時間								
		小計	作業準備	労働	職業教育	休息	食事	運動娯楽	通勤	その他及び不明
技能養成工	100%	42.61	0.99	22.50	6.88	3.13	1.46	0.55	6.80	0.30
一般工	100%	43.09	0.67	29.09	—	2.25	2.33	1.58	7.17	—

工場外における									
小計	生理的再生産の時間								その他及び不明
	計	食事	身仕度	入浴	休息	衛生	睡眠		
5,739	39.09	3.92	2.63	0.38	0.99	0.05	31.91		0.21
5,691	39.50	3.33	1.25	0.17	0.92	0.08	33.58		0.17

生活時間							家事手伝いの時間
計	社会的文化的時間						
	通学	教養	運動	娯楽	交際	その他不明	
16.97	0.87	10.49	1.33	3.45	0.21	0.62	1.33
15.54	0.79	7.88	0.87	4.37	0.42	1.21	1.87

技能養成工と一般工を比較した場合、“工場内における生活時間”“工場外における生活時間”の比率は大体同じ位だが内容の比率は差がみられ、技能養成工は“労働”の比率が低くその代りに“職業教育”の比率が高くなっている。又“教養”“運動”の比率も高くなっている。これに較べて一般工の場合は“労働”“睡眠”“娯楽”の比率が高くなっている。

第19表 労働日の事業場別（A造船所、B造船所）平均生活時間比率

区分	総数	工場における生活時間								
		小計	作業準備	労働	職業教育	休息	食事	運動娯楽	通勤	その他及び不明
A造船所	100%	43.88	1.04	24.59	3.79	3.17	1.04	0.46	9.37	0.42
B造船所	100%	47.70	0.50	28.29	10.58	2.46	1.25	0.29	3.87	0.46

工場外における								
小計	生理的再生産の時間							
	計	食事	身仕度	入浴	休息	衛生	睡眠	その他及び不明
56.12	38.21	3.21	1.62	0.17	1.04	0.12	31.38	0.67
52.30	42.14	3.42	1.58	0.58	0.67	0.04	34.97	0.88

生活時間							家事手配 の時間
計	社会的文化的時間						
	通学	教養	運動	娯楽	交際	その他 不明	
17.62	1.58	11.26	0.62	2.92	0.12	1.12	0.29
9.79	—	4.75	0.83	3.50	0.04	0.67	0.37

次に事業場による特色をみるためにA造船所とB造船所をとり出して比較した。A造船所は東京周辺の事業場で、B造船所は造船を中心として発達して来た田舎の小都会(岡山県)であるため、この2ヶ所を選び出した。この場合どちらも技能養成工ばかりであつた。“工場における生活時間”をくらべると、“労働時間”も“職業教育”の時間もB造船所の方がずっと比率が高いが、“通勤時間”はA造船所が高くなっている。逆に“睡眠時間”“生理的再生産の時間”はB造船所の方が比率が高い。“社会的文化的時間”はA造船所が17.62%、B造船所が6.79%で、その内容をみるとA造船所が“通学”、“教養”に費す時間の比率が高いのにB造船所は“娯楽”に費す時間の比率が高くなつ

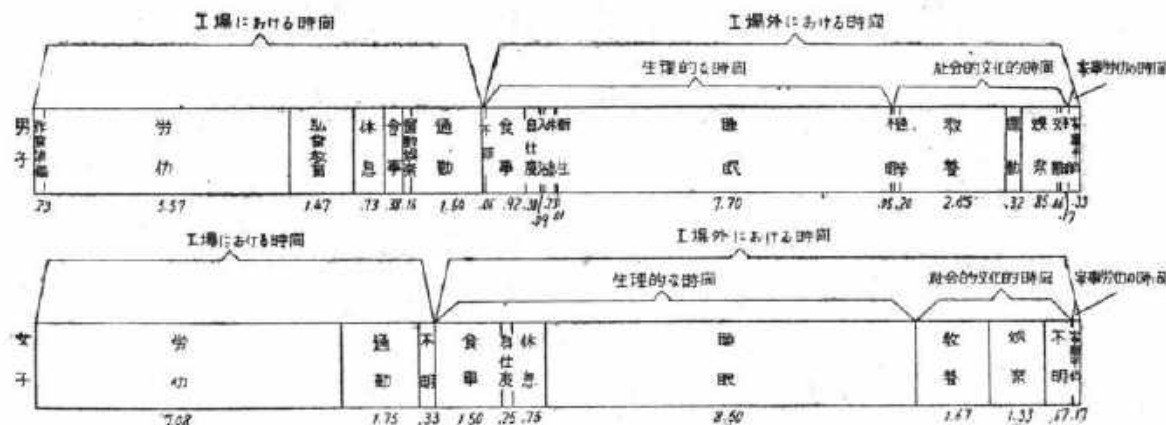
て、この部分で最も著しい違いがみられる。以上の点から大都市と小都市の違いが明らかである。

以上労働日の生活時間について簡単にまとめてみると次のようになる。

1. 男子年少労働者の生活時間は24時間のうち、事業場にいる時間は約40%、9.60時間で、その中“労働”は約23%、5.57時間、“職業教育”が約6%、1.47時間となつている。事業場外の生活時間は約60%、14.40時間で、その中“生理的再生産の時間”が約40%、9.60時間あるため、“社会的文化的な生活時間”は僅かに16%、3.84時間にすぎない。
2. 女子の比率は男子より“工場内における生活時間”も“社会的文化的な生活時間”も低く、逆に“生理的再生産の時間”が高くなつている。
3. 技能養成工と一般工を比較した場合、前者の方が恵れた生活時間を過している。
4. A造船所とB造船所の比較は都会と地方の文化的水準、労働状態、労働意識の違いを明らかに表している。

次に男子と女子の平均生活時間を、比率になおさないで時間のまま表したのが次の表である。

第 16 図 労働日の性別平均生活時間（単位は時間）



休日の生活時間は約 50% が男女とも“生理的再生産の時間”につかわれている。内容についてみると男子は“休息”“睡眠”に多くの時間をつかっているが、女子は身仕度に多くの時間をさいている。“社会的文化的時間”の内容をみると男子は“教養”“運動”の比率が高いのに女子は“趣味”“交際”“娯楽”等の比率が高くなっている。

2 休日

休日の場合は集計上の都合で全員集計する事が不可能となつたので、各事業場毎に 10% 抽出を行つた。

集計人員数

- { 男子 398名 (技能養成工 349名 一般工 49名)
- { 女子 2名
- { A 造船所 (東京) 25名
- { B 造船所 (岡山) 30名

技能養成工と一般工を較べると“生理的再生産の時間”は全体としても、その一つ一つの内容についても殆ど同じ比率であるが、“社会的文化的時間”の内容が非常に異つていて、前者は“教養”“娯楽”の比率が高く、後者は“趣味”の比率が高くなっている。

第 20 表 休日の性別平均生活時間比率

区 分	総 計	生 理 的 再 生 産 の 時 間							社 会 的 文 化 的 時 間							家事手伝 の 時 間	その 他 及 び 不 明 時 間
		小 計	食 事	身 仕 度	休 息	入 浴	睡 眠	小 計	教 養	運 動	趣 味	交 際	娯 楽	音 楽	ラ ジ オ		
男 子	100%	52.62	5.83	1.50	3.42	0.54	41.33	37.38	11.92	7.58	2.46	1.75	8.17	0.03	5.42	8.46	1.54
女 子	100%	51.58	5.75	11.40	—	3.12	31.25	42.71	9.37	—	7.29	8.34	17.71	—	—	5.71	0

第21表 休日の技能養成工、一般工別平均生活時間比率

区 分	総 計	生 理 的 再 生 産 の 時 間						社 会 的 文 化 的 時 間								家事手伝 の 時 間	そ の 他 及 び 不 明 時 間
		小 計	食 事	身 仕 度	休 息	入 浴	睡 眠	小 計	教 養	運 動	趣 味	交 際	娯 楽	音 楽	ラ ジ オ		
技能養成工	100%	52.46	5.87	1.50	3.42	0.54	41.13	37.63	12.43	7.87	0.46	1.96	9.33	0.08	5.50	8.54	1.37
一 般 工	100%	53.80	5.63	1.25	3.62	0.58	42.72	35.79	8.29	5.62	16.50	0.42	—	0.21	4.75	7.62	2.79

第22表 休日の事業場別（A造船所、B造船所）平均生活時間比率

区 分	総 計	生 理 的 再 生 産 の 時 間						社 会 的 文 化 的 時 間								家事手伝 の 時 間	そ の 他 及 び 不 明 時 間
		小 計	食 事	身 仕 度	休 息	入 浴	睡 眠	小 計	教 養	運 動	趣 味	交 際	娯 楽	音 楽	ラ ジ オ		
A 造 船 所	100%	55.04	5.42	2.58	4.62	0.71	41.7	40.46	18.62	3.67	0.17	1.00	8.79	—	8.21	1.58	2.92
B 造 船 所	100%	54.38	6.12	0.50	3.88	0.50	43.38	38.62	12.08	11.38	1.12	0.42	9.87	—	3.75	7.00	—

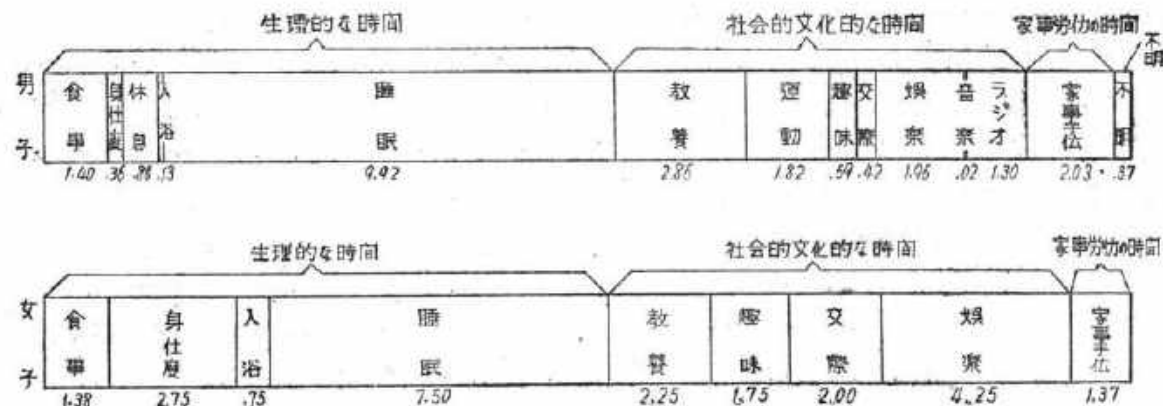
A造船所とB造船所を比較すると“社会的文化的時間”の内容が、前者は“教養”“ラジオ”等の比率が高いが、後者は“運動”“娯楽”等の比率が高く、又“家事手伝”の比率も高くなっている。

以上休日の生活時間をまとめると、

1. 休日の生活時間の約50%、12時間は“生理的再生産の時間”で約30%～40%、7～9時間は“社会的文化的時間”で、その内容は主として“教養”“趣味”“娯楽”のために使われている。
2. 労働日には“生理的再生産の時間”が約40%、9.6時間前後であつたものが、休日は50%、12時間前後となり特に睡眠時間が約

10%、2.4時間増えている。“社会的文化的時間”は前者が約15%、3.6時間位であつたのが、後者は約40%、9.6時間となつている。休日の男子と女子の平均生活時間が次の表である。

第17図 休日の性別平均生活時間(単位時間)



問7 どうして勤めなければならなかったのですか。

第23表 性別常用臨時別就職理由別件数及び比率

区 分	常 用											臨 時										
	計	家計を助けるため	自活のため	上級学校へ行く	結婚仕度のため	家業が嫌だから	技術をおぼえるため	働くことにより自分を向上させるため	面白くないから遊んでいても	その他	不明	計	家計を助けるため	自活のため	上級学校へ行く	結婚仕度のため	家業が嫌だから	技術を覚えるため	働くことにより自分を向上させるため	面白くないから遊んでいても	その他	
件数	計男女	3,466 3,446 20	1,024 1,017 7	363 362 1	444 443 1	36 36 —	78 78 —	942 940 2	367 364 3	113 108 5	39 38 1	60 60 —	30 30 —	9 9 —	2 2 —	— — —	1 1 —	— — —	9 9 —	5 5 —	3 3 —	
比率	計男女	100 100 100	29.5 29.5 35	10.5 10.5 5	12.8 12.9 5	1.0 1.0 —	2.3 2.3 —	27.2 27.3 10	10.6 10.6 15	3.3 3.1 25	1.1 1.1 5	1.7 1.7 —	100 100 100	30 30 —	6.7 6.7 —	— — —	3.3 3.3 —	— — —	30 30 —	16.7 16.7 —	10 10 —	3.3 3.3 —

この質問に対し、把握された常用年少労働者の 3,466 件数について理由別に比較してみると、「家計を助けるため」に働くものが最も多く (29.5%) 次いで「技術をおぼえるため」に働くものが 27.2% を占めている、次は「上級学校に行く学費がないから」働いている者 (12.8%) 「働くことにより自分を向上させるため」に働いている者 (10.6%) 「自活するため」と答えた者 (10.5%) でその大部分が占められている。

これに対し、臨時年少労働者の場合は、「家計を助けるため」に働く者、「技術をおぼえるため」に働く者の両者とも同率 (30%) を占め、次は「働くことにより自分を向上させるため」 (16.7%) となつている。

この表に示される通り、常用、臨時ともに家計の直接補助のために働く者が全体の三分の一を占めているが、「自活のため」、「上級学校へ行く学費がないから」「結婚仕度のため」等の間接的家計補助を合せれば、全体の半数以上は経済的理由に基づくものであることを示している。又技術の習得によつて将来の経済的安定を望む者

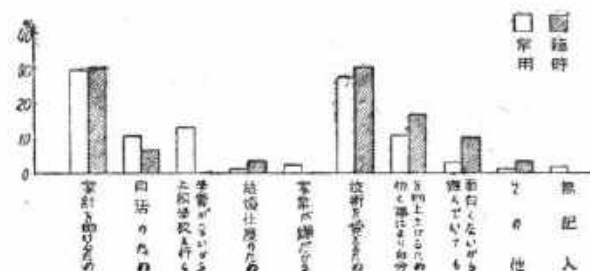
も全体の三分の一を占め、これらの理由の中に年少者が労働しなければならない原因がみられるわけである。

次に男女別に比較するならば、常用年少者においては「家計を助けるため」は、男子 29.5% 女子 35% で女子の方が比較的多いが「自活のため」「上級学校へ行く学費がない」「技術をおぼえるため」等の理由は男子の方が 2 倍程度多くなつている。又「遊んでいても面白くないから」と答えた者が男子 3.1% 女子 25% を占めているが、これは間接的家計補助を意味するものであらうと思われる。

なお臨時年少労働者の中には女子は全く含まれていない。又一般工と技能養成工とに分けて集計出来なかつたので、両者を比較することは出来なかつた。

問 8 どうして造船工場を選んだのですか。
この問に対して先ず常用年少労働者から把握

第18図 性別就職理由別件数比率



された 3,466 件数についてみると、「造船は将来性があるから」「造船技術が好きだから」等の一応自分の意識的判斷にもとづいたものと思わ

第 24 表 性別常用臨時別造船工場に就職理由別件数及比率

区 分		常 用												臨 時											
		計	められた職業安定所です	められた学校の先生にす	められた父母や知人にす	友人と一緒にだから	家が近いから	親兄弟又は知人が勤めているから	造船の技術が好きだから	造船は将来性があるから	他に良いつとめ口がないから	その他	不明	計	められた職業安定所です	められた学校の先生にす	められた父母や知人にす	友人と一緒にだから	家が近いから	親兄弟又は知人が勤めているから	造船の技術が好きだから	造船は将来性があるから	他に良いつとめ口がないから		
実 数	計	3,460	126	310	480	106	275	314	277	1,153	339	65	15	29	—	—	3	1	5	4	7	6	3		
	男	3,437	126	310	475	105	270	310	276	1,150	337	65	13	29	—	—	3	1	5	4	7	6	3		
	女	23	—	—	5	1	5	4	1	3	2	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
比 率	計	100	3.6	9.0	13.9	3.1	8.0	9.0	8.0	33.3	9.8	1.9	0.4	100	—	—	10.4	3.4	17.2	13.8	24.1	20.7	10.4		
	男	100	3.6	9.0	13.8	3.1	7.9	9.0	8.0	33.5	9.8	1.9	0.4	100	—	—	10.4	3.4	17.2	13.8	24.1	20.7	10.4		
	女	100	—	—	21.7	4.3	21.4	17.4	4.3	13.0	8.7	—	8.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		

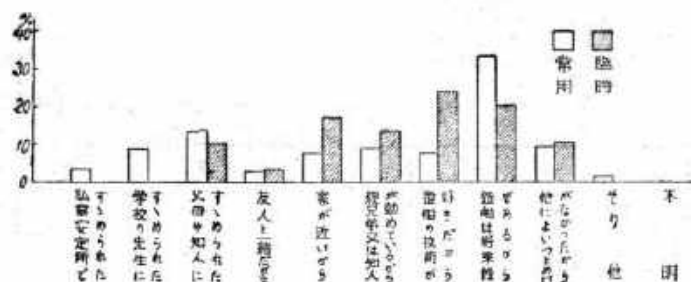
れるものが 41.3% を占めている。更に「職業安定所、学校、父母等にすすめられたから」又「友人と一緒にだから」「親、兄弟、知人が勤めているから」等の外的働きかけによつてきめられたものが、38.6%となつており、その他の外的条件（家が近いから、他に良いつとめ口がなかったから）によつて選んだ者は 17.8% となつている。

次に臨時年少労働者 29 件についてみると、「造船は将来性があるから」「造船技術が好きだから」等の理由によるもの 44.8%、「職業安定所、学校、父母、知人にすすめられたから」「友達、親、兄弟、知人と一緒にだから」と答えた者が 27.6%その他の外的条件（家に近いから 17.2%、他に良いつとめ口がないから 10.4%）による者 27.6%となつており、

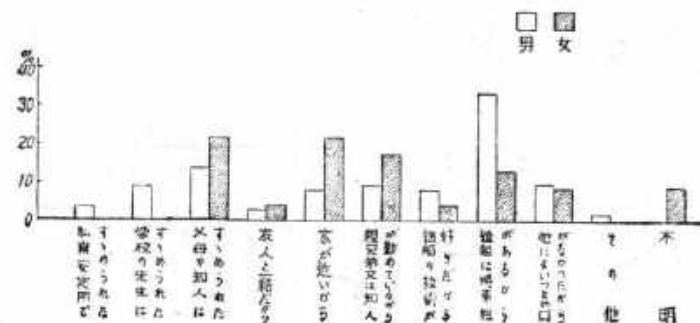
常用、臨時によるいちぢるしい相違点はあらわれていない。

次に男女別にみると、（常用年少者のみ）「造船工業は将来性があるから」及び「技術が好きであるから」による者が男子の場合は 41.5%に對し女子は僅かに 17.3% にすぎず、「家が近いから、他に勤め口がないから」の理由によるものが、男子 17.7%に對し女子は 30.1%を占めている。又「職業安定所、学校、父母にすすめられた」「友達、親、兄弟、友人と一緒にだから」の理由による者は男子 38.5% 女子 43.4%となつており、以上の通り、男女によつて相違をあらわしている。

第 20 圖 男子常用臨時別就職理由別件數比率



第 21 圖 性別就職理由別件數比率

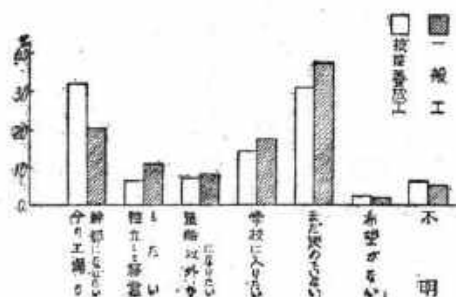


問9 あなたは何になりたいと思いますか。

第 25 表 技能養成工一般工別将来の希望別年少労働者数及び比率

区 分	技 能 養 成 工									一 般 工						
	計	幹 部 に な り た い 今 の 工 場 の	た い し て 経 営 し 独 立 し て	(〇 〇 に な り た い 造 船 以 外 の	学 校 に 入 り た い	ま だ 決 め て い な い	希 望 が な い	不 明	計	幹 部 に な り た い 今 の 工 場 の	た い し て 経 営 し 独 立 し て	(〇 〇 に な り た い 造 船 以 外 の	学 校 に 入 り た い	ま だ 決 め て い な い	希 望 が な い	不 明
実 数	1,755	563	112	129	249	549	46	107	239	45	23	18	38	83	5	27
比 率	100	32.1	6.4	7.4	14.2	31.3	2.6	6.0	100	18.8	9.6	7.5	15.9	34.8	2.1	11.3

第 22 図 技能養成工一般工別将来の希望別年少労働者数比率



い」と答えた者は技能養成工 14.2% 一般工 15.9% で、「独立して経営したい」と考えている者は技能養成工 6.4%、一般工 9.6% となっており「造船以外の（ ）になりたい」と希望している者は技能養成工 7.4%、一般工 7.5% を占めている。

以上示されている通り、「今の工場の幹部になりたい」と考えている者は、一般工より技能養成工の方が 13.3% 多くなっており、独立したい、造船以外の（ ）になりたい、学校に行きたいと希望する者は、一般工の方が 5% 多くなっている。

次に「造船以外の（ ）になりたい」と答えた者の希望職業を比較

将来の希望についての質問に対し、答えた年少労働者の中「未だ決っていない者、希望のない者」が技能養成工 33.9% 一般工 36.9% となつてい

る。希望のある者について条件を比較すると、「今の工場の幹部になりたい」と答えた者が最も多く、技能養成工 32.1%、一般工 18.8% となつて

すれば、技能養成工では技術者を希望しているものが 41.1% で約半数を占め、次が政治家、事務員がそれぞれ 9.3%、教職員、公務員、芸能

第 26 表 造船工業以外の就職を希望する者の技能養成工一般工別希望職業別年少労働者数及比率

区 分	技 能 養 成 工										
	計	教職員	技術者	公務員	政治家	実業家	船員	事務員	職人	芸能人	自由業
実 数	129	7	53	7	12	1	7	12	3	7	4
比 率	100%	5.4	41.1	5.4	9.3	0.8	5.4	9.3	2.3	5.4	3.1

一 般 工											
計	教職員	技術者	公務員	政治家	実業家	船員	事務員	職人	芸能人	自由業	その他
18	—	3	3	3	—	1	2	—	—	2	4
100%	—	16.7	16.7	16.7	—	5.6	11.1	—	—	11.1	22.1

人が 5.4% となつている。これに対して、一般工は技術者、公務員、政治家がそれぞれ 16.7% を占め、次は事務員、自由業 11.1% となつている。「その他」という者が技能養成工 12.5% 一般工 22.1% を占めているが、これは漠然と現在の職業に対する不満を感じているものであらうと思われる。技術関係に対する希望者が半数以上占めているが、年少労働者の技術に関する深い関心がうかがわれるものである。

問10 最近どんな本を読みましたか。

読書傾向について、技能養成工と一般工とを比較すれば、特にいち

第 27 表 技能養成工一般工別
読書傾向別件数比率

区 分	一般工	技能養成工
計	100%	100%
社会、思想	3.5	5.1
歴史、地理	—	0.8
経済	—	0.3
法	0.9	0.2
理学	—	0.2
工学	4.4	2.1
美術	—	0.2
文学(西洋)	0.9	9.1
文学(東洋)	8.8	12.7
小説	24.8	23.3
詩歌	—	1.3
娯楽誌	2.7	6.1
総合雑誌	30.1	8.9
婦人	3.5	1.0
時局	—	2.6
少年	1.8	2.9
スポーツ	2.7	3.0
映画演劇	0.9	1.3
工学	2.7	5.0
大衆娯楽	3.5	3.8
伝記	—	3.0
児童	3.5	4.4
学	5.3	2.7
	(女1.8)	

の歴史、世界歴史、フランス革命史等)、経済(経済学入門、経済学等)、理学(応用力学、理論物理学等)美術等は技能養成工のみである。なほ法律の主なものは労働基準法、タフトハーレー法等であつた。

るしい相違は、西洋文学では技能養成工が 9.1%を占めているのに対し、一般工は僅 0.9%にすぎず、工学工業は技能養成工 2.1%に対し、一般工は約 2 倍を占めている。(工学工業の中に含まれる主な書物は、造船学、機械工作、鑄物学、電気通論、電波科学等である。)又社会、思想、哲学(人生論、哲学入門、唯物論と観念論弁証法、ものの見方、読書論、デモクラシーの本質と価値、奴隷制度、三太郎日記等が多くみられる)については技能養成工 5.1%、一般工 3.5%で技能養成工の方がやゝ高く、その他歴史(人間の歴史、日本

第 28 図 技能養成工一般工別読書傾向別件数比率

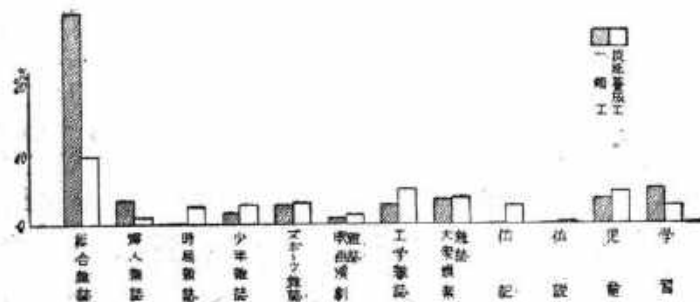


雑誌については、総合雑誌(その主なものはリーダーズ・ダイジェスト)は一般工 30.1% に対し、技能養成工は 8.9%にすぎず、大きなひらきを示しているが、工学雑誌(その主なものは、無線と実験)は技能養成工の方が一般工より 2 倍高く時局物、伝記物(リンカン、湯川秀樹、ロバートオーエン、キューリー夫人、エジソン等)は技能養成工のみとなつている。

その他児童物(乞食王子、家なき子、三銃士、宝島等)は一般工 3.5% 技能養成工 4.4%である。

次に年令別に比較すれば、社会、思想、哲学、工学工業、西洋文学、小説、詩歌(ハイネ、ヘルマンヘッセ、石川啄木、島崎藤村等の詩集)においては、年令が高くなるにしたがい読書率も高くなつていく。

第24図 技能養成工一般工別雑誌読書傾向別件数比率



第25図 年令別読書傾向別件数比率



娯楽物、東洋文学（夏目漱石、山本有三、芥川龍之介、尾崎紅葉、樋口一葉その他、枕の草紙、徒々草等がみられる。）においては年令の低い者の方が読書率は高くなっている。

雑誌については、総合雑誌は15歳12.5%、16歳14.4%、17歳5.4%

第28表 年令別、読書傾向別、件数比率

区 分	15才	16才	17才
計	100%	100%	100%
社会、思想、哲学	2.9	3.0	8.1
歴史、地理	1.3	0.6	0.4
経済	0.4	0.2	0.2
法律	—	0.6	0.2
理学	—	0.4	0.2
工学、工業	0.4	3.0	3.3
美術	0.4	0.2	—
文学（西）	6.6	7.7	10.8
文学（東）	13.3	12.4	11.8
小説	15.3	25.4	29.0
詩	0.7	0.8	2.1
娘	7.7	5.1	4.8
総合雑誌	12.5	14.4	5.4
婦人	—	0.4	2.9
時局	4.2	1.0	2.1
少年	5.1	2.4	1.2
スポーツ	5.1	4.1	—
映画、演劇	0.7	1.4	1.8
工学	10.0	3.9	1.4
大衆娯楽	0.4	5.3	5.2
伝説	4.4	2.0	1.8
児童	4.6	3.0	5.2
学	4.0	2.7	2.1

で17歳は15歳、16歳の読書率の約半分となつている。

少年雑誌、スポーツ雑誌、工学雑誌も年令の低い者の方が高率となつている。

その他伝記は15歳4.4%に対し16歳2.0%、17歳1.8%である。

以上述べた通り、一般工と技能養成工ではやや読書傾向に相違がみられ、年令別にもそれぞれ相当変化がみられる。

図書の入手方法について件数を比較すれば自分で購入した

者は31.0%で53.9%の者は第29表に示されている通りそれぞれの方法でいることが示されている。

第 28 図 年令別雑誌読書傾向別件数比率



第 29 表 図書入手方法別件数及比率

区 分	計	自分で買った	友達に借りた	工場の本を借りた	図書館で借りた	学校図書室から借りた	貸本屋から借りた	その他	不明
実 数	2,146	665	562	218	103	167	106	119	206
比 率	100.0	31.0	26.2	10.2	4.8	7.8	4.9	5.5	9.6

問 11 あなたは新聞をよみますか。

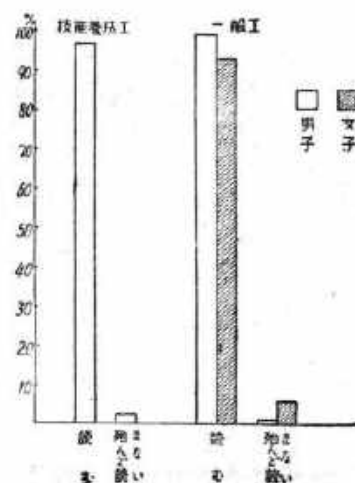
この問に対して「読む」と答えたものは、一般工 98.7%、技能養成工 97.2%である。「殆んど読まない」と答えた者は一般工 1.3%、技能養成工 2.4%となつてゐる。

次に「新聞で一番よむ面はどこですか」の答について分類してみる

第 30 表 性別技能養成工一般工別新聞購読傾向別年少労働者数及比率

区 分		技 能 養 成 工				一 般 工			
		計	読 む	殆んど読まない	不 明	計	読 む	殆んど読まない	不 明
実 数	計男女	1,755	1,706	42	7	239	236	3	—
		1,755	1,706	42	7	223	221	2	—
		—	—	—	—	16	15	1	—
比 率	計男女	100	97.2	2.4	0.4	100	98.7	1.3	—
		100	97.2	2.4	0.4	100	99.1	0.9	—
						100	93.7	6.3	—

第27図 技能養成工一般工別購読傾向別年少労働者数比率



と、技能養成工は社会面が28.2%、政治経済面22.4%、娯楽面20.5%、文化面14.7%、小説11.0%の順を占めてゐる。一般工の男子の場合は社会面26.2%、娯楽面22.9%、政治経済面17.4%、小説13.8%、文化面10.9%となつており、技能養成工の傾向と多少の相違がみられる。又一般工女

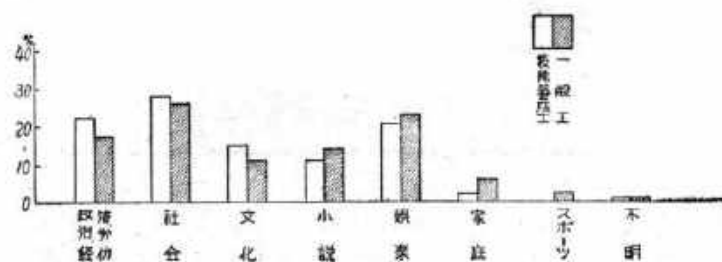
第31表A 技能養成工一般工別年令別新聞購読傾向別件数及比率

区 分	技 能 養 成 工					一 般 工 (男子)					技 能 養 成 工 (比率)					一 般 工 (比率)				
	計	17才	16才	15才	15才未満	計	17才	16才	15才	15才未満	計	17才	16才	15才	15才未満	計	17才	16才	15才	15才未満
計	3,072	1,006	1,067	938	11	340	186	79	57	18	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
政治 経済 労働	689	234	231	222	2	59	37	13	7	2	22.4	23.3	21.6	22.5	18.2	17.4	19.9	16.5	12.3	11.1
社 会	868	263	306	297	2	89	40	26	21	2	28.2	26.1	28.6	30.1	18.2	26.2	21.5	32.9	36.8	11.1
文 化	452	154	176	120	2	37	24	7	4	2	14.7	15.3	16.5	12.1	18.2	10.9	12.9	18.9	7.0	11.1
小 説	337	134	119	82	2	47	28	11	3	5	11.0	13.3	11.2	8.3	18.2	13.8	15.1	13.9	15.3	27.8
娯 楽	629	189	209	228	3	78	40	16	18	4	20.5	18.8	9.6	23.1	27.2	22.9	21.5	20.3	31.6	22.2
家 庭	64	23	15	26	—	20	11	2	4	3	2.1	2.3	1.4	2.6	—	5.9	5.9	2.5	7.0	16.7
ス ポ ーツ	10	—	4	6	—	8	5	3	—	—	0.3	—	0.4	0.6	—	2.4	2.7	3.8	—	—
そ の 他	2	—	1	1	—	—	—	—	—	—	0.1	—	0.1	0.1	—	—	—	—	—	—
不 明	21	9	6	6	—	2	1	1	—	—	0.7	0.9	0.6	0.6	—	0.6	0.5	1.3	—	—

第31表B 技能養成工、一般工別年令別新聞購読傾向別件数及比率

区 分	一 般 工 (女子)					比 率				
	計	17才	16才	15才	15才未満	計	17才	16才	15才	15才未満
計	27	17	10	0	0	100	100	100	100	100
政治 経済 労働	3	3	—	—	—	11.1	17.6	—	—	—
社 会	9	5	4	—	—	33.4	29.4	40.0	—	—
文 化	1	1	—	—	—	3.7	5.9	—	—	—
小 説	5	2	3	—	—	18.5	11.8	30.0	—	—
娯 楽	7	5	2	—	—	25.9	29.4	20.0	—	—
家 庭	1	—	1	—	—	3.7	—	10.0	—	—
ス ポ ーツ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
不 明	1	1	—	—	—	3.7	5.9	—	—	—

第28図 技能養成工一般工別新聞購読傾向別件数比率



子については社会面 33.4%、娯楽面 25.9% 小説18.5%、政治経済面 11.1%の順となっており、男子に比して政治経済面を読む比率がやや少なくなっている。

次に年令別にみるならば、技能養成工、一般工を問わず、各年令とも社会面が一位を占めている。(15歳未満は娯楽小説面となつている。)

次は政治経済面、娯楽、小説、文化面が殆んどを占めているが、年令が低くなるに従い、政治経済面に比し、娯楽、小説面が多くなっている。又女子の場合は 17歳、16歳共に社会面が一位を占め、次は 17歳では娯楽、16歳では小説となつている。年令別にいちぢるしい相違はみられなかつた。

第 32 表 技能養成工一般工別年令別新聞種類別件数及比率

区 分	技 能 養 成 工					一 般 工					技 能 養 成 工 (比率)					一 般 工 (比率)				
	計	17才	16才	15才	15才未満	計	17才	16才	15才	15才未満	計	17才	16才	15才	15才未満	計	17才	16才	15才	15才未満
計	1,704	548	716	535	5	207	120	59	27	1	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
朝 日 新 聞	341	129	185	125	2	70	48	15	6	1	20.0	23.5	25.8	23.4	40.0	33.8	40.0	25.4	22.2	100
毎 日 "	458	136	190	132	—	45	25	12	8	—	26.9	24.8	26.5	24.7	—	21.7	20.8	20.3	29.7	—
読 売 "	238	70	93	73	2	23	9	7	7	—	14.0	12.8	13.0	13.7	40.0	11.1	7.5	11.9	25.9	—
地 方 "	432	129	160	143	—	51	28	18	5	—	25.4	23.5	22.4	26.7	—	24.6	23.4	30.5	18.5	—
経済関係 "	33	11	15	7	—	1	1	—	—	—	2.0	2.0	2.1	1.3	—	0.5	0.8	—	—	—
スポーツ "	119	45	39	34	1	14	9	4	1	—	7.0	8.2	5.5	6.4	2.0	6.8	7.5	6.8	3.7	—
娯 楽 "	3	1	1	1	—	—	—	—	—	—	0.1	0.2	0.1	0.2	—	—	—	—	—	—
職 場 "	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
そ の 他 "	43	13	17	13	—	1	—	1	—	—	2.5	2.4	2.4	2.5	—	0.5	—	1.7	—	—
不 明	37	14	16	7	—	2	—	2	—	—	2.2	2.6	2.2	1.3	—	1.0	—	3.4	—	—

参考までに新聞名をあげると第32表の通り朝日、毎日、読売等の、新聞で60.9%が占められ、次が地方新聞となつている。スポーツ、娯楽等の新聞は9.7%にすぎない。

問 12 一般的に労働組合活動をどう思いますか。

「組合活動をもつと活潑にして欲しい」という者は男子 39.9%、女子 23.1%、「必要である」という者と合すると男子は78%、女子は46.2%

となつてゐる。

第 33 表 労働組合活動に対する希望別件数及比率

区 分	実 数							比 率						
	計	もつと活 躍に	必要で ある	あつても よい	必要で ある	わからない	無 記 入	計	もつと活 躍に	必要で ある	あつても よい	必要で ある	わからない	無 記 入
計	2,001	797	760	5	9	347	83	100	39.8	38.0	0.3	0.5	17.3	4.1
男	1,988	794	757	5	—	342	81	100	39.9	38.1	0.3	0.5	17.2	4.0
女	13	3	3	—	—	5	2	100	23.1	23.1	—	—	38.4	15.4

第 34 表 技能養成工一般工別労働組合活動に対する希望別件数及比率

区 分	技能養成工		一 般 工		女 子	
	件数	比率	件数	比率	件数	比率
計	1,391	100	132	100	13	100
もつと活潑にして欲しい	540	38.8	38	28.8	3	23.1
必要である	559	40.2	63	47.7	3	23.1
あつてもなくてもよい	1	0.1	1	0.8	—	—
不必要である	4	0.3	1	0.8	—	—
わからない	261	18.7	18	13.6	5	38.4
無 記 入	26	1.9	11	8.3	2	15.4

問 13 あなたの工場の労働組合に何をのぞみますか。

第 35 表 技能養成工一般工別労働組合に対する要求別件数及比率

区 分	常 用														一 般 工																														
	技 能 養 成 工														無 記 入																														
計	組合員の声を中心に活動を 御用組合化反対 積極的活動をのぞむ														組合はレクリエーションを 全面的にストに賛成する 組合費が高すぎる																														
	組合員の声を中心に活動を 御用組合化反対 積極的活動をのぞむ														組合はレクリエーションを 全面的にストに賛成する 組合費が高すぎる																														
件数	1,953	296	108	27	25	62	20	28	18	36	2	104	28	19	11	27	48	20	10	8	26	285	240	520	195	16	9	2	4	2	-	1	-	8	5	1	-	4	-	2	-	2	31	17	92
比率	100	15.2	5.5	1.4	1.3	3.2	1.0	1.4	0.9	1.5	0.1	5.3	1.4	0.9	0.6	1.4	2.2	1.0	0.5	0.4	1.3	14.6	12.3	26.6	100	7.7	4.6	1.0	2.1	1.0	-	0.5	-	4.2	2.6	0.5	-	2.1	-	1.0	-	1.0	15.9	8.7	47.2

年少労働者が自分の属する組合に対する希望を述べたもので、第35表のとおり技能養成工一般工共大休同様な傾向を示している。前者は積極的な活動を望む者15.2%、御用組合化に反対する者 5.5%、賃金値上げ

の活動を希望する者5.3%、後者は夫々 7.7%、4.6%、4.1%となつていて前者より比率が低い、どちらの場合もこれらの項目が最も高い比率を示している。

第 33 表(A) 事業場に対する要求別件数及比率

区 分	常											用												
	技 能 養 成											工												
	計	賃金の値上要求	賃金の遅配反対	賃金の分割払反対	交通費の支給	衣服の支給を要求する	工場施設(設備)の改善	工場内の明朗化(清潔)	工場内の衛生設備の充実	工場内の娯楽設備の充実	工場内の文化施設活動を要求する	レクリエーションに関する希望(含スポーツ)	労働時間の改正	休み時間の増加	年少工の待遇改善	対する不満 現在の食事(工場の)	職場の安全保障	職場の民主化	仕事の指導の徹底化	現在の職業学校に対する不満	夜学へ行かせてくれ	希望なし	分らない	不明(無記入)
実 数	1,901	100	16	18	3	9	227	36	94	116	63	86	25	35	130	11	15	95	35	25	29	435	20	278
比 率	100	5.3	0.8	0.9	0.2	0.5	12.0	1.9	5.0	6.1	3.3	4.5	1.3	1.8	6.8	0.6	0.8	5.0	1.8	1.3	1.5	22.9	1.1	14.6

問 14 あなたの工場に対して希望していることを書いて下さい。

「あなたの工場に対して何をのぞみますか」の質問に対して、第36表に示される通り非常に広範囲の要望件数が出されている。先づこれらの要求事項を、給与、労働時間、労働環境、福祉厚生、職場指導、その他に大きく分類し、それらの比率をとつてみる。技能養成については労働環境の改善を希望するものが最高を占め(18.9%)次が福祉厚生設備の充実(14.5%)給与の改善(8.5%)となつている。労働時間の改正をのぞむ者が 3.1%を占めているが、その詳細については不明であつた。

次に一般工についてみると、労働環境の改善、22.3%、次が給与問題で 10.3%を占め、福祉厚生設備の要求者は 11.4%となつている。

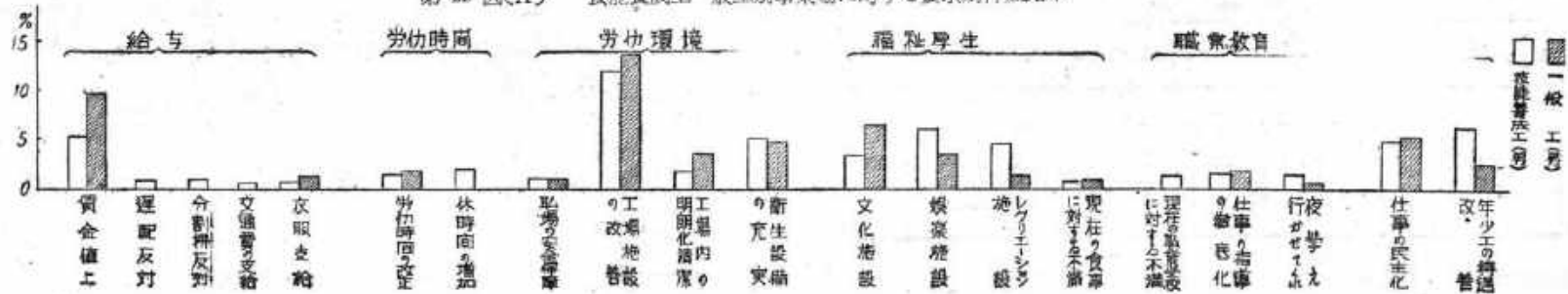
職場指導要求については、技能養成工の 4.6%に対し、一般工は 2.5%となつている。希望なしと答えたものは技能養成工 22.9%、一般工 16.9%となつており、「分らない」と答えたものは、両者ともそれぞれ 1%程度にすぎない。又記入のなかつたものは技能養成工 14.6%、一般工24.3%であつた。

次に臨時年少労働者についてみると、職場指導要求が第1位を占め

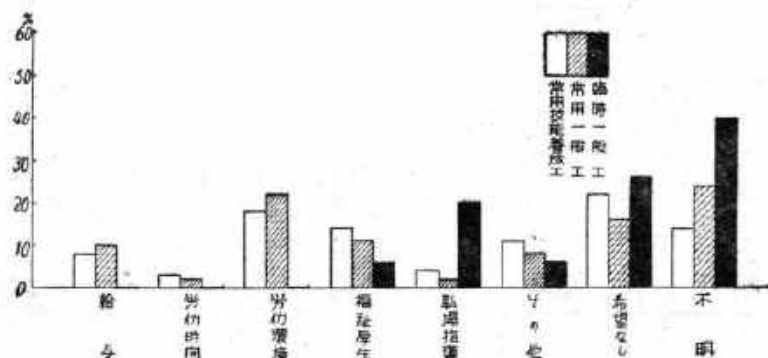
第 38 表(B) 事業場に対する要求別、性別件数及比率

区 分	用 常																			
	一 般										工									
	計	賃金値上要求	賃金運配反対	賃金分割払反対	交通費の支給	衣服の支給を要求する	工場設備の改善	工場内の明朗化(清潔)	工場内の衛生設備の充実	工場内の娯楽設備の充実	工場内の文化施設活動をする希望	レクリエーションに関	労働時間の改正	休み時間の増加	年少工待遇改善	現在の工場食事に對する不満	職場の安全と保障	職場の民主化	仕事の指導の徹底化	現在の職業学校に對する不満
実 計 数 男 女	271	25	—	—	—	3	36	9	12	9	17	3	7	—	8	2	3	14	5	—
	256	25	—	—	—	3	35	9	12	9	17	3	6	—	7	2	2	14	5	—
	15	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1	—	1	—	1	—	—	—
比 計 率 男 女	100	9.2	—	—	—	1.1	13.3	3.3	4.4	3.3	6.3	1.1	2.6	—	3.0	0.7	1.3	5.2	1.8	—
	100	9.8	—	—	—	1.2	13.7	3.5	4.7	3.5	6.6	1.2	2.3	—	2.7	0.8	0.8	5.5	1.9	—
	100	—	—	—	—	—	6.7	—	—	—	—	—	6.7	—	6.7	—	6.7	—	—	—

第 29 図(A) 技能養成工一般工別事業場に対する要求別件数比率



第 29 図(B) 技能養成工一般工臨時工別工場に対する要求別件数比率



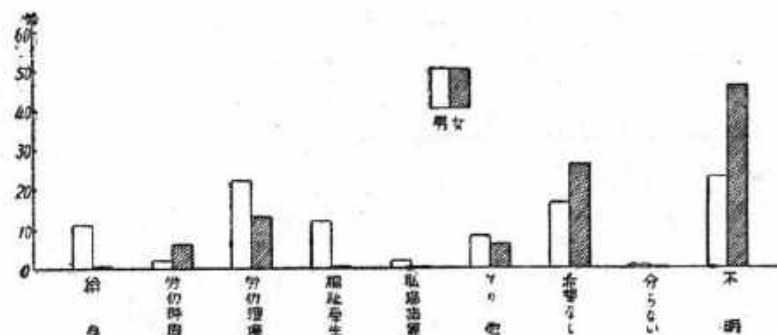
第 36 表 (C) 技能養成工一般工別性別事業場要求件数比率

区 分	常 用 年 少 勞 働 者								
	計	給 与	労 働 時 間	労 働 環 境	福 祉 厚 生	職 場 指 導	そ の 他	希 望 な し	分 ら ない
技能養成工	100	8.5	3.1	18.9	14.5	4.6	11.8	22.9	1.1
一般工	計	100	10.3	2.6	22.3	11.4	2.5	8.2	16.1
	男	100	11.0	2.3	22.7	12.1	2.7	8.2	16.4
	女	100	—	6.7	13.4	—	—	6.7	26.7

第 37 表 臨時年少労働者(男子)事業場要求件数及比率

区 分	臨 時 年 少 勞 働 者								
	計	給 与	労 働 時 間	労 働 環 境	福 祉 厚 生	職 場 指 導	そ の 他	希 望 な し	不 明
実 数	12	—	—	—	1	3	1	1	6
比 率	100	—	—	—	8.3	25.1	8.3	8.3	50.0

第 29 図(C) 性別一般常用年少者事業場に対する要求別件数比率



(25.1%)、次が福祉厚生 8.3%となっており、希望なしと答えたものは 8.3%、不明は50%である。

なお給与関係に含まれる意見は賃金値上、選配反対、選配にともなう分割払反対、交通費の支給、衣服の支給等である。労働時間については労働時間の改正、休時間の増加等が含まれる。労働環境については、職場の安全保障、工場施設の改善、工場内の明朗清潔化、衛生設備の充実等であり、福祉厚生については文化施設、娯楽施設、食事に対する意見が含まれている。職場教育に対する希望意見というのは、現在の職業学校に対する不満、仕事の指導の徹底化、夜学への希望等が含まれ、その他の中には、仕事の民主化、年少労働者の一般待遇の改善等の要求意見が出されている。

次に、一般工について男女別に意見の相違をみると、労働環境に対する希望は男子22.7%、女子13.4%であり、給与に対する希望は男子11%に対し女子は0%である。労働時間については男子2.3%、女子6.7%で女子の方が多く、福祉厚生及び職場指導に関する希望は男子のみとなっている。「希望なし」と答えた者は男子16.4%、女子26.7%で、相当の相違がみられる。

臨時工(男子)の場合は職場指導の要求が25.1%を占めていることは、一般工とともに、切実な年少労働者の要求であることがうかがい知られるのである。

問 15 あなたは入社前に学校又はそれ以外のところで職業指導を受けましたか。

第 38 表 技能養成工一般工別職業指導有無別年少労働者数及比率

区 分	実 数				比 率			
	計	受けた	受けない	不明	計	受けた	受けない	不明
計	1,991	1,160	744	87	100	58.3	37.4	4.3
技能養成	1,755	1,053	626	76	100	60.0	35.7	4.3
男	223	103	112	8	100	46.2	50.2	3.6
一般工 女	13	4	6	3	100	30.7	46.2	3.1

あなたは入社前に学校又はそれ以外のところで職業指導を受けましたか。の質問に対し、受けましたと答えたものは 58.3% (1,160名) で、受けないものは37.4% (744名) である。受けたものの中、技能養成工と一般工に分けてみると、前者は 60.0% に対し、後者は 45.3% であり、受けないものは、技能養成工の 37.4% に対し一般工は 50% となっている。又一般工を男女別に比較すれば、職業指導を受けたものは、男子 46.2%、女子 30.7%、受けないものは男子 50.2%、女子 46.2% で(不明、男子 3.6%、女子 23.1%) あつた。

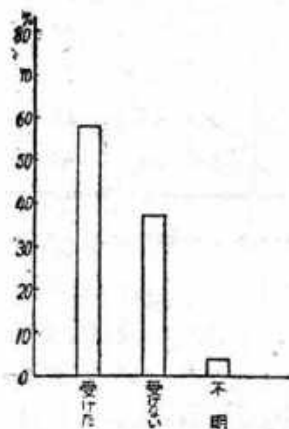
どこで指導されたかの問に対しては正確な資料が把握されなかつたのではおく事にする。

最後にこの余暇生活調査結果の概要をまとめてみると次のとおりである。

1. 造船製造業に働く年少労働者の中、臨時雇の者は 0.5 % に過ぎず、常雇の 88.0% は技能養成工である。男子は全体の 99.0% を占め、その半数以上が造船部門に就業している。

2. 夜学に行っている者は約 40 %で、技能養成工は主として定時制

第 31 図 職業指導有無別年少労働者数比率



高等学校に、一般工は定時制実業高等学校に行っている。夜学に行っている一般工の約 60% は、無理があると訴えており、その理由は過労と答えた者が約 50%、時間の余裕がないと答えた者が約 35% を占めている。学校或は技能教育が役に立つかという質問に対しては技能養成工の約 75% の者が役に立つと答えているが、一般工の場合は 40% 以下である。学校に行っていない者の中、約 70% は

学校に行きたいと答え、その半数は身体が疲れるから行けないという理由を挙げている。行きたくないと答えた者も身体が疲れるという理由を挙げた者が多く、身体疲労が学校に行く事の出来ない大きな理由となつている。

8. 生活時間調査によると、技能養成工は一般工より労働日、休日ともに比較的恵まれた生活時間を過している。一般的に造船製造業に働く年少者の平均労働時間はそれ程長時間でないのにも拘らず、他の調査項目で疲労を訴えている者が多いのは、特殊な作業及び作業環境がその一因ではないかと思われる。このことは労働日の疲労回復のためか休日の睡眠時間が非常に増加している事からも想像され

る。(但し休日の睡眠時間増加の原因が疲労のみとも思えないが、これが一因である事は考えられる。)

4. 就職動機は家庭の経済的理由が全体の半数以上を占めている。将来について技能養成工は「今の工場の幹部になりたい」、「技術者になりたい」等一般工より現実的希望的な考えをもっている。
5. 新聞、図書等の読書傾向は技能養成工と一般工で幾分相違がある。図書を入手するためには半数以上の者は借用という形をとっている。
6. 一般的な労働組合活動に対しては組合活動の必要、その活潑化を望む者が非常に多いにもかかわらず、自分の属している組合に対する希望意見は不明の者が約 50% もあつた。けれども意見を書いた者は、活動の活潑化、御用組合化反対等積極的な意見が多く、又相当広範囲にわたる希望が出されている。
7. 事業場に対する希望意見も非常に広範囲にわたっているが、特に労働環境に関するものが多かつたのは、造船業の労働環境の特色によるためであろう。
8. 就職前に職業指導を受けたものは、全体の約 60% で、その中の約 80% は学校で受けている。

余暇生活調査票 (個人調査)

1 あなたの工場の名前をかいて下さい。

2 a あなたは ^{ジョウギヤトイ}常 雇 ですか ^{リンジヤトイ}臨 時 雇 ですか。○常雇 (○技能養成工 ○一般工) ○臨時雇 ○その他

b 年齢はいくつですか。(性別)

c いつここにつとめましたか。

3 あなたの職名は。

4 あなたの出た学校はどこですか。

○ 小 学 校

○ 中 学 校

○ 高 等 学 校

○ 定時制高等学校

○ 実業高等学校

○ 定時制実業高等学校

○ 職業補導所

○ ^{ソクギヨウ}卒 業

○ ^{チュウタイ}中 退

5 あなたは現在学校又は技能者養成所に行っていますか。

○ 行っている。

① どの学校ですか。

○ 定時制高等学校 ○ 定時制実業学校

○ 技能養成 () 工

② 何年在学ですか。

○1年 ○2年 ○3年 ○4年 ○5年

③ 学校と工場と両方で生活に無理がありませんか。

○ ある どうして ()

○ ない

④ 学校で勉強したり或は技能を受けている事が、あなたの生活にとってどんな役にたちますか。

○ 行っていない。

学校に行きたいと思いませんか。

○ 行きたいが行けない。

どうして ()

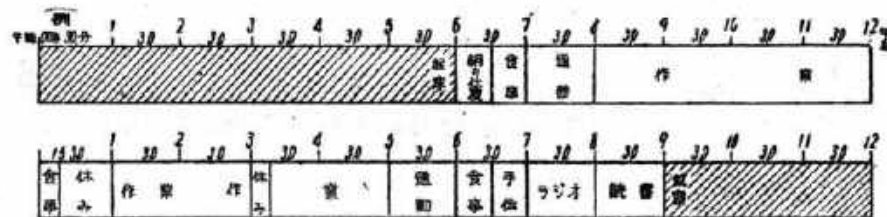
- 時間がない
- 身体がつかれる
- 適当な学校が近くにないから
- 学費がだせない
- 家計がくるしい
- その他 ()

○ 行きたくない。

どうして ()

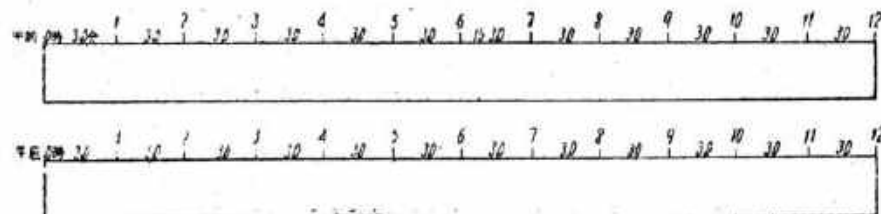
6 あなたが朝起きてから夜ねるまでどんな生活をしているか下の例をよくみてから自分の生活を表(1)及び表(2)に書き入れて下さい。

例

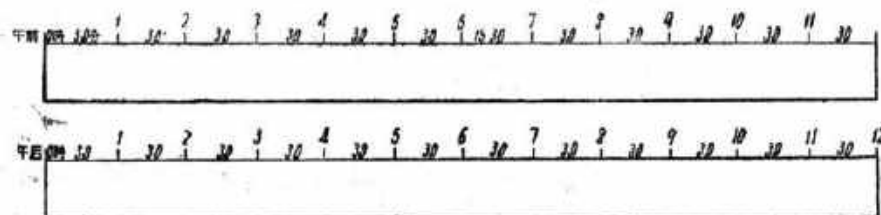


必ずかき入れなければならないこと、起きる時刻、ねる時刻、作業時間、食事時間、通勤時間、準備時間、休憩時間。（時間は例えば32分と云うように書かないで、30分単位でよろしいが、通勤、準備、休憩、食事の時間は30分より少ない場合がありますから15分単位にして下さい。）

表（1） 昨日1日どうして過ごしたか。



表（2） この前の休日は1日どうして過ごしたか。



7 どうして務めなければならなかったのですか。

- ☐ 家計を助けるため、
- ☐ 上級学校へ行く学費がないから
- ☐ 家業がきらいだから
- ☐ 自活のため
- ☐ 結婚仕度のため
- ☐ 技術をおぼえるため

☐ 働くことにより自分を向上させるため

☐ 遊んでいても面白くないから ☐ その他（ ）

8 どうして造船工場をえらんだのですか。

☐ 職業安定所ですすめられたから ☐ 学校の先生にすすめられたから

- ☐ 父母や知人にすすめられたから
- ☐ 友人と一語だつたから
- ☐ 家が近いから
- ☐ 親、兄弟又は知人が誘っているから
- ☐ 造船の技術が好きだから
- ☐ 造船は将来性があるから
- ☐ 他に良いつとめ口がなかったから
- ☐ その他()

9 あなたは何になりたいと思いますか。

- ☐ 今の工場の幹部になりたい
- ☐ 独立して経営したい
- ☐ 造船以外の()になりたい
- ☐ 学校に入りたい
- ☐ まだきめていない
- ☐ 希望がない

10 最近どんな本を読みましたか。

(イ) 本の名前を書いて下さい。

(ロ) その本はどうして手に入れましたか。

- ☐ 自分で買った
- ☐ 友達にかりた
- ☐ 工場の本をかりた
- ☐ 図書館でかりた
- ☐ 学校図書室からかりた
- ☐ 貸し本屋でかりた
- ☐ その他()

11 あなたは新聞を読みますか。

☐ 殆んどよまない。

☐ よむ。何新聞をよみますか() 新聞)

新聞で一番よく読む面はどの面ですか。

- ☐ 政治、経済、労働
- ☐ 社会
- ☐ 文化
- ☐ 小説
- ☐ 娯楽
- ☐ 家庭

12 一般的に労働組合活動をどう思いますか。

☐ 組合活動をもつと活発にして欲しい。

☐ 組合活動は必要である。

☐ 組合活動はあつてもなくてもよい。

☐ 組合活動は不必要である。

☐ わからない。

13 あなたの工場の労働組合に何をのぞみますか。

14 あなたの工場に対して希望していることを書いて下さい。

15 あなたは入社前に学校又はそれ以外のところで職業指導を受けましたか。

- ☐ 受けた。どこで受けましたか()
だれから受けましたか。(○ 先生、○ 職業安定所の人)
○その他()
- ☐ 受けない。

年少労働調査資料 (発行したもの)

- 第 1 集 鉄道連結手災害調査 (1948 年 5 月 — プリント)
- 第 2 集 衛生上有害物質を取扱う業務に関する特殊調査 (1948 年 6 月 — プリント)
- 第 3 集 “サーカスを視て” — サーカスの年少労働者演技の調査 (1948 年 7 月 — プリント)
- 第 4 集 年少労働者災害統計 (1948 年 8 月 — プリント)
- 第 5 集 国営鉄道事業における年少従業者の適業基準 (1949 年 9 月 — プリント)
- 第 6 集 “働く少年少女のメモ” — 年少労働者の労働および労働態度調査 (1949 年 8 月 — 活版)
- 第 7 集 “学びながら働く年少者” — 労働基準法による使用許可証明をえて働く年少者の調査 (1949 年 8 月 — 活版)
- 第 8 集 “街頭に働く年少者” — 年少街頭労働者実態調査の報告 — (1949 年 10 月 — 活版)
- 第 9 集 “サーカスに働く年少者” — サーカスに働く年少者実態調査の報告 — (1950 年 1 月 — 活版)
- 第 10 集 電球および真空管製造業に働く年少者の実態調査 — (1951 年 6 月 — プリント)
- 第 11 集 電球および真空管製造業—年少労働者の適業 (1950 年 9 月 — プリント)
- 第 12 集 電球および真空管製造業に働く年少者の余暇生活調査—余暇生活施設調査 (1950 年 11 月—活版)
- 第 13 集 “ ” “ ” “ ” —余暇生活個人調査 (1950 年 11 月—活版)
- 第 14 集 電球および真空管製造業に働く年少者の労働条件および労働環境実態調査 (1951 年 1 月—活版)
- 第 15 集 小企業に働く年少者—金属及機械器具製造業、第 1 部事業場調査第 2 部個人調査 (1951 年 12 月—活版)

GAa1/1

労働省婦人少年局



女性と仕事の未来館



00730198